

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部スポーツマネジメント学科	今宿 裕	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

■ 前期

基礎ゼミナール 1
フィールドワーク A
フィールドワーク B
プレインターンシップ
スポーツマネジメント論
スポーツサービス論
スポーツマネジメント演習 B
研究ゼミナール 1
研究ゼミナール 3
研究ゼミナール 5

■ 後期

基礎ゼミナール 2
経営学総論 B
スタディスキル A
スポーツと現代社会
スポーツマネジメント演習 A
スポーツツーリズム
研究ゼミナール 2
研究ゼミナール 4
研究ゼミナール 6

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

■ 専門性を身につけた社会人の育成

大学教育において専門的な知識・技能を身につけることで、職業生活あるいは社会生活において直面する諸課題に対応できる人間の育成を目指す。

■ 自ら考え、自ら行動する社会人の育成

知識・技能の習得のみならず、自ら問題・課題を発見し、それを解決する方法を見つけ出し実行できる人間の育成を目指す。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

■ 講義科目

専門的知識・技能の習得を促すため、スポーツマネジメント論で基礎的な知識の定着を図り、スポーツサービ論やスポーツツーリズムにおいて応用的な知識の獲得を目指している。また、一方的な講義だけではなく、学生同士が議論や意見交換のできるようなグループワークを取り入れており、他者の考えや主張を聞き入れ、自分の意見を的確に表現できるような能力を高める機会も設けている。

■ 演習科目

演習科目ではプロスポーツのイベントや国際的なスポーツイベントにボランティアとして関わることで、スポーツマネジメントに関する知識の獲得のみならず実践的な学習の場を提供している。

■ ゼミナール

研究活動を通じて、課題・問題の発見、情報・資料の収集、調査、データの分析、文章の執筆等を経験させている。その経験を通して、論理的思考や自分で説明する能力等の育成を図っている。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

スポーツマネジメント論では毎年、90%から95%程度の学生が単位を取得するに至っていることから、ほとんどの学生は基礎的な知識が定着していると考えられる。また、応用的な科目におけるグループワークでも、積極的に議論や意見交換をしている様子が認められ、主体的な学習が促されているものと思われる。ゼミナールでは、学年が上がるにつれて自ら学ぶ姿勢が強くなっていると感じられる。

【目標】(今後どうするか)

スポーツマネジメントの現場で経験する機会を増やしたいと考えている。栃木県内には複数のプロスポーツ組織が存在することから、様々なスポーツ組織でボランティアを経験する場を提供したい。ゼミナールでは、学内の他のゼミや他大学のゼミとの交流の機会を設けたい。1つのゼミに閉じた活動ではなく外に開かれた活動を経験することで、多様な考え方に触れる機会を増やしたいと考える。